

新型コロナウイルス感染拡大防止のためのご協力をお願いいたします。

- ・発熱や体調のすぐれない方は、ご来場をお控えください。
- ・ご来場時はマスクの着用をお願いいたします。
- ・手指の消毒や手洗いをお願いいたします。
- ・購入時または来場時、「お名前・ご連絡先」等をお伺いします。この情報は必要に応じて保健所等の公的機関へ提供する場合がございますので、ご了承ください。

※兵庫県及び明石市立市民会館自主事業開催ガイドラインに沿って運営しています。



指揮とお話：延原 武春（のぶはら・たけはる）

18世紀音楽を専門とする指揮者・オーボエ奏者。1963年にテレマン室内オーケストラを創設。彼らを率いて「文化庁芸術祭・優秀賞」（関西初）・「第17回サントリー音楽賞」（現在もテレマンと東京交響楽団以外のプロオーケストラは受賞していない）等を受賞。1982年、初演当時の編成とベートーヴェンの指定したテンポで「第九」を演奏（世界初）。2008年にはベートーヴェンの交響曲全曲を、作曲家指定のテンポとクラシカル楽器を使用して指揮。この公演が引き金となってドイツ連邦共和国より「功労勲章功労十字小綬章」が贈られた。

ヴァイオリン：浅井 咲乃（あさい・さきの）

テレマン室内オーケストラ、ソロコンサートマスター。2008年にヴァイオリン・ソリストとして登場し、ヴィヴァルディの「四季」全曲を見事に好演。2010年の第195回定期演奏会における同曲の公演も「いま、もっとも聞きたい『四季』と言ってよい」（モーストリッククラシック 2011年2月号）という高い評価を得ている。2012年にはナミレコードよりヴィヴァルディ「四季」全曲、「ムガール大帝」などを収録した1stアルバムを、2015年には2ndアルバム「『よろこび』と『かなしみ』」をリリース。2016年から2017年にかけて、オリジナル楽器によるベートーヴェン作曲ヴァイオリン・ソナタ全曲公演に出演。平成30年度咲くやこの花賞（音楽部門）を授賞。



チェンバロ：高田 泰治（たかた・たいじ）

2002年神戸新聞松方ホールにてテレマン室内オーケストラとともにピアノ、フォルテピアノ、チェンバロのそれぞれの協奏曲を一夜で演奏するという公演にてデビュー。J.S.バッハの作品をテーマにチェンバロのリサイタルシリーズの演奏内容が高く評価され、2011年「バッハ・アルヒーフ」（ライブツィヒ）定期演奏会に招聘された。C.ショルンスハイム、A.シュタイアー、O.ポーモンらに師事。平成23年度坂井時忠音楽賞受賞。平成28年度咲くやこの花賞音楽部門受賞。2018年度音楽クリティッククラブ賞奨励賞受賞。

フルート：森本 英希（もりもと・ひでき）

和歌山県橋本市出身。京都市立芸術大学大学院研究科修士課程修了。大阪シンフォニカー（現大阪交響楽団）フルート奏者を経て現在、テレマン室内オーケストラのフルート奏者。ムラマツフルートレッスンセンター講師。京都バロック楽器アンサンブル、フルート四重奏団「アンサンブル・リュネット」、現代音楽アンサンブル next mushroom promotion のメンバー。古楽器奏者としてもライブツィヒ・バッハ・フェスティバル2003、コレギウム・ムジクム・テレマンのCD録音などを含む多数の演奏に参加している。2006年丹波の森国際音楽祭、2012年韓国国際音楽祭等でソリストを務める。



テレマン室内オーケストラ

1963年に指揮者・延原武春が結成。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。その活動は高く評価され「サントリー音楽賞」「音楽クリティッククラブ賞」、「大阪府民劇場賞」、等を受賞している。2003年、ドイツの「バッハ・フェスティバル」でC.P.E.バッハ「チェンバロ協奏曲 Wq 1」を世界初演した。2007年にはクラシカル楽器によるF.J.ハイドンのオラトリオ「四季」を好演、「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞。2012年よりドイツ人バロック・ヴァイオリン奏者ウラ・ブンディース氏を首席客演コンサートマスターとして迎えた。